

夏休み中にやろうとしていたことの一つに、校長室の耐火書庫のものを一度全部出してしまおうということがあった。私は、校長先生がお休みで、仕事も一段落ついた夏休みのある日、ついに決行することにした。全部出すことで、何が入っているのかがわかる。お宝も見つかった。そして、戻すときに自分が使いやすいように並べることができたのである。古くて必要のないものも出てきた。お陰で2学期からは、耐火書庫の前で探し物をしなくてもよくなった。

教頭1年目の仕事で一番めまいがしたことと言えば「南会津学習サポート事業事務局」となる。これは、県教委の事業で、南会津の中学校6校が関わっていた。檜沢中学校教頭は、その事務局だった。くじで言うと大当たりのようなものである。わからない、見えない、でもやるしかない。「こんな感じかな。たぶんこうかなあ」といった具合ではあったが、お陰で教頭先生同士のネットワークに参加させていただき、県副知事、県総務課長、県教育長、県教育庁学習指導課長（当時）とお会いすることもできた。私がお会いし、言葉を交わすことができた当時の副知事が今の内堀県知事である。

また、教育事務所の指導主事の方や県教育庁の指導主事の方、ベネッセの方ともやりとりをすることが多く、これもまた勉強になった。それから県議会議員団の皆さんが来校したこともあった。教育行政や議員さん、民間など、今まで接することのなかった方々とのやりとりを通して、様々なことが見えてきた。そのときは必死だったが、今振り返ると、いい経験ができたと思う。ちなみに、学習指導課長と県議会議員からは、厳しく責め立てられたこともあった。莫大な予算が使われているにもかかわらず、成果が上がっていなかったからである。

事務の先生と養護教諭、用務員さんなどとの関係づくりも教頭職の重要なポイントとなる。私の場合は、教頭席の左隣にいつもいる事務の先生が独特な方で、最初は気を使った。向こうはベテラン事務職員、こちらは何もわからない新任教頭である。機嫌を伺いながらわからないことを聞いたり、指示されたことをこなしていた。

あるとき「点検するのが教頭先生の仕事ですから」と言われ、書類に目を通していたところ、前年度の事務処理上のミスを見つけてしまった。「これは困った。ミスを指摘したら大変なことになりそうだ。機嫌を損ねたらどうしよう」と思ったのだが、明らかなミスであった。仕方なく指摘したところ、かえって今までよりも優しくしていただけるようになり、仕事もスムーズにいくようになった。挙げ句の果てには、お弁当までつくってもらえるようになってしまった。これはこれで大変だった。

教頭1年目の私は、「校長の意を体する」どころではなかった。それは、自分が校長になってよくわかったことである。教頭時代の自分の至らなさが校長になるとわかるのである。今でもあのときの校長先生には申し訳なかったと思う。目の前のことを何とか処理していくと、とりあえず月日が流れていった。校長先生に恵まれ、先生方にも恵まれ、地域にも恵まれ、何とか教頭生活1年目を終えることができた私であった。

自分が校長になり、校長会で教頭時代にお仕えした校長先生にお会いすることができた。あいさつをし、私は教頭時代の至らなさを詫びたことがある。そのときの校長先生は、にこにこ「そんなことはないよ」と言ってくださったのだが。

(次号に続く)